



写真2 日本からの参加者4名。会場の前にて

同時に、excursionやbanquetを通じて多くの研究者と知り合える良い機会(日本熱測定討論会では話を聞けない先生方と個別に話もできる)となり、筆者の研究により刺激になったことをお伝えしておく。私のようにまだ駆け出しの研究者にとってもこの会議への参加は意義あるものと思われるので、ESTAC 7(次回の会議は1998年にハンガリーで開催されることになっている)には日本からもっと多くの参加があることを期待したい。

(第一製薬(株)開発研究所 北岡宏章)

レポート

第23回NATASコンファレンス報告

1994年9月25日から28日に、NATAS (North American Thermal Analysis Society)の会議がカナダのトロントで行われた。この学会はその名称からわかる通り、主としてカナダとアメリカの研究者によって構成されており、会議の出席者もこの二ヶ国が大半であった。手元に出席者一覧表がないので出席者の総数、カナダ、アメリカ以外からの出席者数等の正確な数字はわからないが、出席者総数はほぼ熱測定討論会程度、日本からの出席者は報告者を含めて3名であった。会議はシンポジウム1から12に分けられており、各シンポジウムの内容は次の通りであった。

- シンポジウム1 ダイナミックDSCの応用
- シンポジウム2 無機材料
- シンポジウム3 熱硬化性および熱可塑性高分子
- シンポジウム4 エネルギー関連材料の熱解析
- シンポジウム5 生物学および薬学への熱解析の応用
- シンポジウム6 環境学への熱解析の応用
- シンポジウム7 高分子複合材料のキャラクタリゼーションと評価
- シンポジウム8 熱解析の方法
- シンポジウム9 建築および建物材料に関する熱解析
- シンポジウム10 熱解析一般
- シンポジウム11 新しい装置およびソフトウェア
- シンポジウム12 ポスターセッション

上の項目から実用的なテクノロジーに直結したものが多くが見てとれるが、実際参加者、発表者ともに企業の研究者が半数以上であった。このためか日本の熱測定学会とは発表内容の点で少々異なった雰囲気であっ

た。報告者は名古屋大学の八田教授と同じく、ダイナミックDSCのシンポジウムで発表を行ったが、このシンポジウムは新しい測定法ということで関心が高く、ほぼ一日を要し会場も満席であった。今回の会議で最も参加者の多いシンポジウムであったと思われる。

今回の会議は表題の通り第23回であったが、NATASとしては設立25年でひとつの節目にあたっていた。トロントは第一回のNATAS会議が行われた場所であり、設立25年を記念して再びトロント開催となったとのことである。しかし近年はNATASも益々盛んとばかりは言えないらしく、banquetで行われた25年を振り返っての講演では、これを機に新たなブレイクスルーをとの呼びかけがなされていた。

会場、宿泊は街の中心にある大きなホテルであり、便利かつ快適であった。いくつかの発表の入れ替え等があったが、学会の運営はスムーズに行われた。ひとつ不便を感じたのは、プログラムの目次に発表者の所属が書かれていないことであった。予稿は長短様々であり、このあたりはお国柄というところであろう。お国柄といえ、banquetの後にicecream and danceなる集まりがあり、これには驚いた。カナダ・アメリカ流の山盛りアイスクリームと大音響のディスコ調ダンスのパーティなのである。日本なら夏期講習会の懇親会で、かき氷に盆踊りというところかもしれない。

報告者の怠慢で写真を全く撮らなかったため、文章のみの報告となってしまったことをお詫びします。

(京都工芸繊維大学繊維学部 猿山靖夫)